

# 東那珂遺跡 6

—第8次調査報告—

2021

福岡市教育委員会



# 東那珂遺跡 6

—第8次調査報告—



遺跡地号 HGN-8  
調査番号 1901

2021

福岡市教育委員会



## 序

福岡市は玄界灘を介して大陸・半島と一衣帯水の関係にあり、古代より双方の交流が絶え間なくおこなわれてきました。市内には重要な文化財が数多く残されており、近年の著しい都市化により失われるこれらを後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、共同住宅建築に伴う東那珂遺跡第8次発掘調査について報告するものです。この調査では古代の掘立柱建物を検出するとともに、須恵器や土師器などの遺物が出土しました。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、株式会社ワイズパートナー様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和3年6月30日

福岡市教育委員会  
教育長 星子明夫

## 例言

1. 本書は福岡市教育委員会が博多区東那珂1丁目の共同住宅建設に伴い、平成31(2019)年4月8日から令和元年5月23日に発掘調査をした東那珂遺跡第8次調査の報告書である。
2. 遺構の実測・写真撮影は板倉有大・三浦萌が行った。
3. 遺物の実測は三浦が行った。
4. 遺物の写真撮影は三浦が行った。
5. 製図は三浦が行った。
6. 本書に掲載した方位はすべて磁北である。
7. 本書に掲載した座標は世界測地系である。
8. 本書に使用した遺構略号はSB=掘立柱建物、SK=土坑、SD=溝、SP=柱穴(ピット)である。
9. 本書に関わる図面・写真・遺物は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される。
10. 本書の執筆・編集は三浦が行った。

遺跡名	東那珂遺跡	調査回数	8次	調査略号	HGN-8
調査番号	1901	分布地図幅名	23 雀居	遺跡登録番号	2635
申請地面積	598.11㎡	調査対象面積	177.01㎡	調査面積	234.65㎡
調査期間	平成31年4月8日～令和元年5月23日		事前審査番号	30-2-275	
調査地	福岡市博多区東那珂1丁目425番、426番				

## 目 次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
II. 遺跡の立地と環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
III. 調査の記録	5
1. 調査の概要	5
2. 基本層序	7
3. 遺構と遺物	8
1) 掘立柱建物	8
2) 土坑	9
3) 溝	10
4) その他	10
4. まとめ	11

## 挿図目次

図1 東那珂遺跡周辺遺跡分布図 (1/25000)	3
図2 調査地点位置図 (1/5000)	4
図3 東那珂遺跡第8次調査区位置図(1/500)	5
図4 調査区全体図 (1/120)	6
図5 調査区土層図 (上・中央:1/80 下:1/40)	7
図6 SB-140実測図 (1/40)	8
図7 SK-002遺構実測図 (1/40)	9
図8 SK-002出土遺物実測図 (1/3)	9
図9 SD-001出土土器 (1/3)	10
図10 その他遺構・包含層出土土器(1/3)	11

## 図版目次

図版1	1. II区全景 (北から)	12
図版2	1. I区全景 (北から)	13
	2. II区東壁・SD-081土層	13
図版3	1. I区南壁土層	14
	2. SK-002 (東から)	14
図版4	1. II区西壁土層	15
	2. II区西壁土層	15

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成30(2018)年6月27日付けで、福岡市博多区東那珂1丁目425番、426番(敷地面積:598.11㎡)における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が、株式会社ワイズパートナーより福岡市教育委員会宛てになされた(事前審査番号:30-2-275)。

これを受けて経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である東那珂遺跡に含まれていることから、平成30年8月21日に工区内の一部において試掘調査を実施した。調査の結果、現地表下170～180cmにおいて遺構を確認したため、申請者と協議を重ねた結果、発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成31年4月8日～令和元年5月23日まで行い、報告書作成の整理作業は令和2・3年度に行った。

## 2. 調査の組織

調査委託：株式会社 ワイズパートナー

調査主体：福岡市教育委員会

(発掘調査：平成31年度・令和元年度)

調査総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課 課長	菅波正人
	同課調査第2係長	大塚紀宜
庶務：	文化財活用課管理調整係	松原加奈枝
事前審査：	埋蔵文化財課事前審査係	朝岡俊也
調査担当：	埋蔵文化財課調査第1係文化財主事	板倉有大(～4月)
	調査第2係文化財主事	三浦 萌

(整理・報告：令和2・3年度)

整理・報告総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課 課長	菅波正人
	同課調査第2係長	藏富士寛
整理・報告庶務：	文化財活用課管理調整係	松原加奈枝
整理・報告担当：	埋蔵文化財課調査第2係文化財主事	三浦 萌

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

玄界灘と背振・三郡山系に挟まれた福岡市には、糟屋、福岡、早良、今宿の4つの平野が広がっている。東那珂遺跡はそのうちの福岡平野の中央部を流れる御笠川東岸の沖積地上に位置しており、遺跡周辺の地形は御笠川や那珂川をはじめとした河川の浸食によってつくられた中低位の段丘と沖積低地によって構成されている。その段丘上には集落跡や墳墓などの遺跡が、沖積低地には水田跡などの遺構が発見されている。

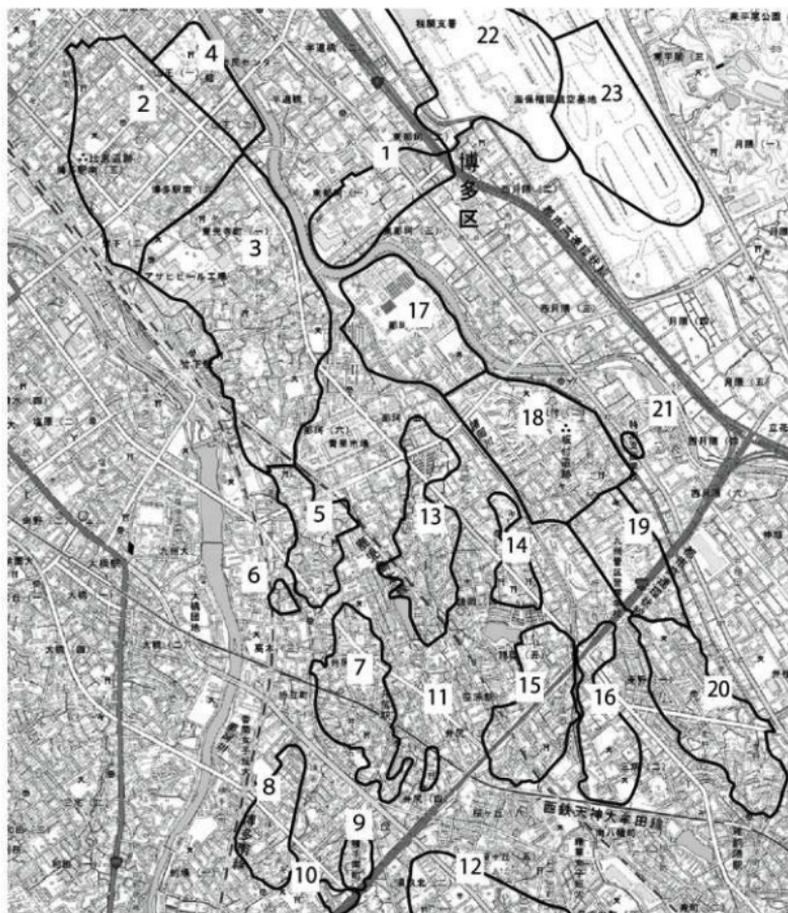
### 2. 歴史的環境

東那珂遺跡の周辺に位置する遺跡には、御笠川を挟んで西に比恵遺跡群と那珂遺跡群、南に那珂君休遺跡や板付遺跡などがある。東には雀居遺跡や下月隈D遺跡が立地する。西に立地する比恵遺跡群と那珂遺跡群は弥生から中世にわたる集落遺跡である。那珂遺跡群では縄文晩期の二重環濠集落や弥生時代の環濠集落跡・甕棺墓群などが発見されている。また古墳時代前期の前方後円墳である那珂八幡古墳も築かれている。その北部に隣接している比恵遺跡群では6～7世紀の倉庫群を中心とした那珂津官家とみられる遺構群や7～8世紀の郡衙の可能性のある区画溝が発見されている。南に位置する那珂君休遺跡は弥生時代から中世までの水田が多く検出されている遺跡である。また古代の条里に伴う溝が確認されており、大宰府からの官道が通ることが推定されている。

東那珂遺跡は縄文晩期から中世にわたる複合遺跡であり、これまでに7回の発掘調査が実施されている。古代の集落跡を中心とした遺跡ではあるが、遺跡の北東で行われた第4次調査では縄文晩期の遺構と弥生時代の遺構が発見されており、他の調査区とは異なる特色を示している。今回行った8次調査区の南西隣接地で行われた第1次調査では古代の道路状遺構と掘立柱建物、溝、井戸、木棺墓が発見され、墨書土器や越州窯系陶磁器が出土している。その他にも古墳時代の竪穴住居址・土坑が発見されており、その中でも古墳時代前期の住居址からは破鏡が出土した。第2次調査では古墳時代前期の溝、古代の掘立柱建物などが確認された。古代の遺構が少ないものの、遺物の量は多い。第3次調査は第2次調査と道路を挟んで反対側で行われている。古墳時代前期の溝、中世の井戸や土坑が確認されている。第4次調査は東那珂遺跡の北東端にて行われ、縄文時代晩期末から弥生時代中期にかけての集落の端部が発見されており、1～3次調査で見られたものとは異なる傾向が示されている。第5次調査は第1次調査の北側で行われており、古代以前のものと思われる水田2面とその上面において畦畔と足跡を検出している。第6次調査は遺跡の北側の中央部にて行われ、8世紀代の水田と畦畔が発見されているものの、水田区画は不明である。第7次調査は遺跡の北西端で行われた。古代の掘立柱建物3棟や溝、ピット等が検出されており、1次調査で見られた掘立柱建物群とあわせて大規模集落を構成する一部であると考えられている。

#### 【参考文献】

- ・福岡市教育委員会1995『東那珂遺跡1』福岡市埋蔵文化財調査報告書第400集
- ・福岡市教育委員会1996『東那珂遺跡2』福岡市埋蔵文化財調査報告書第460集
- ・福岡市教育委員会2000『東那珂4・烏田1』福岡市埋蔵文化財調査報告書第637集
- ・福岡市教育委員会2007『東那珂遺跡5』福岡市埋蔵文化財調査報告書第959集



- |             |             |              |             |             |
|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. 東那珂遺跡    | 2. 比恵遺跡群    | 3. 那珂遺跡群     | 4. 山王遺跡     | 5. 五十川遺跡    |
| 6. 井尻 A 遺跡  | 7. 井尻 B 遺跡  | 8. 横手遺跡      | 9. 寺島遺跡     | 10. 笠拔遺跡    |
| 11. 井尻 C 遺跡 | 12. 須玖・岡本遺跡 | 13. 諸岡 A 遺跡  | 14. 諸岡 B 遺跡 | 15. 笹原遺跡    |
| 16. 三筑遺跡    | 17. 那珂君休遺跡  | 18. 板付遺跡     | 19. 高畑遺跡    | 20. 麦野 A 遺跡 |
| 21. 板付東遺跡   | 22. 雀居遺跡    | 23. 下月隈 D 遺跡 |             |             |

图 1. 東那珂遺跡周辺遺跡分布図 (1/25000)

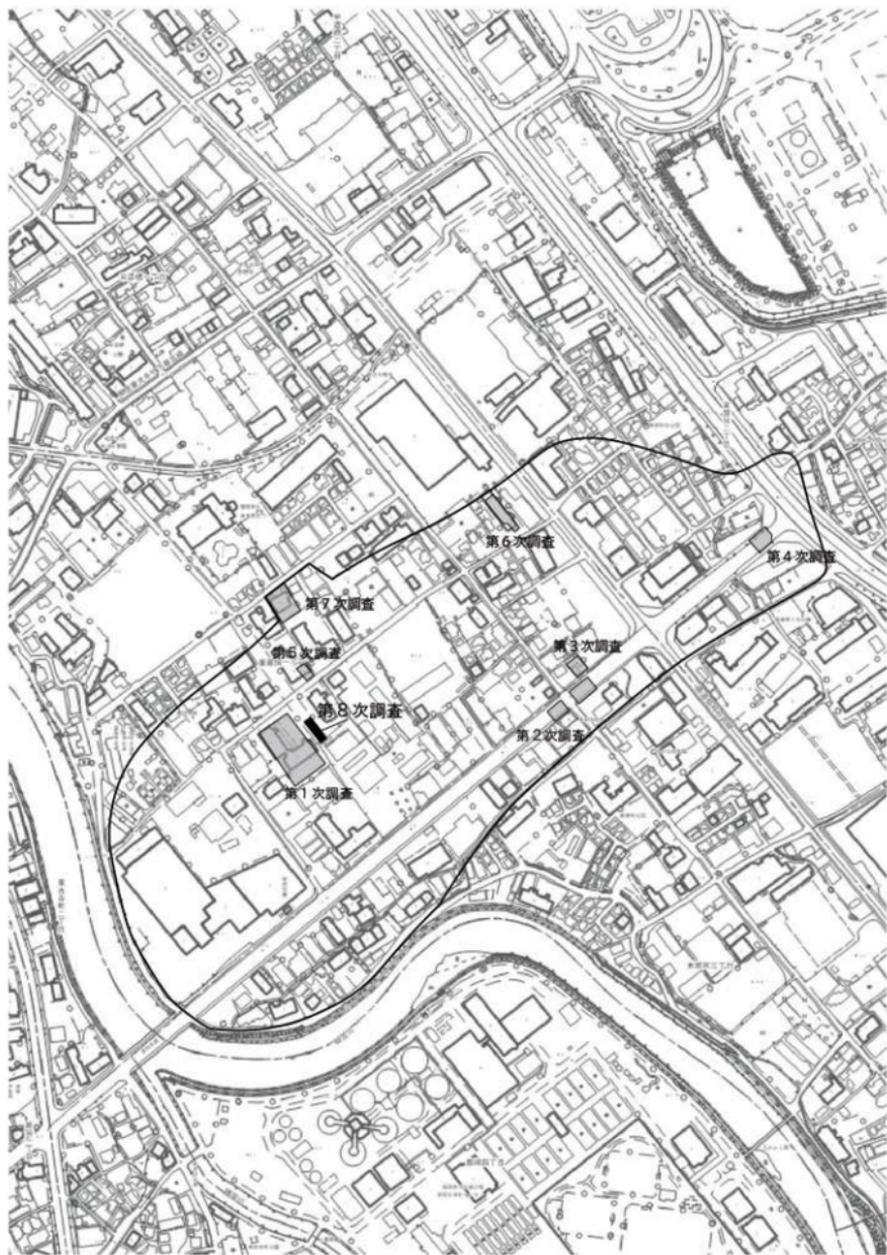


図2. 調査地点位置図 (1/5000)

### Ⅲ. 調査の記録

#### 1. 調査の概要

今回報告する東那珂遺跡第8次調査区は、博多区東那珂1丁目425番426番に所在している。東那珂遺跡のほぼ中央に位置しており、西側隣接地で第1次調査が、道路を挟んで北側で第5次調査が行われている。

発掘調査は、当該工事の地下へ影響が及ぶ121.37㎡を対象とした。廃土処理の関係上、調査区を2分割し南側半分の調査から行い、その後北側半分の調査を行っている。地表面から約110cmで遺構面が確認され、この上面までの表土の鋤取りを行った後、人力で遺構の検出及び掘削、遺構実測、写真撮影を行った。発掘調査は平成31年4月8日に開始し、令和元年5月23日に終了している。

本調査区で検出された遺構は掘立柱建物が1棟、土坑1基、溝5条、柱穴（ビット）多数である。出土遺物等からそのほとんどが古代の遺構であると考えられる。発見された掘立柱建物はその規模や軸方向が隣接する第1次調査区で発見された道路状遺構とそれともなう倉庫群と考えられている掘立柱建物群とほぼ同規模であり、かつ主軸方位も同じであるため、その倉庫群を構成していた一棟である可能性が考えられる。



図3. 東那珂遺跡第8次調査区位置図 (1/500)

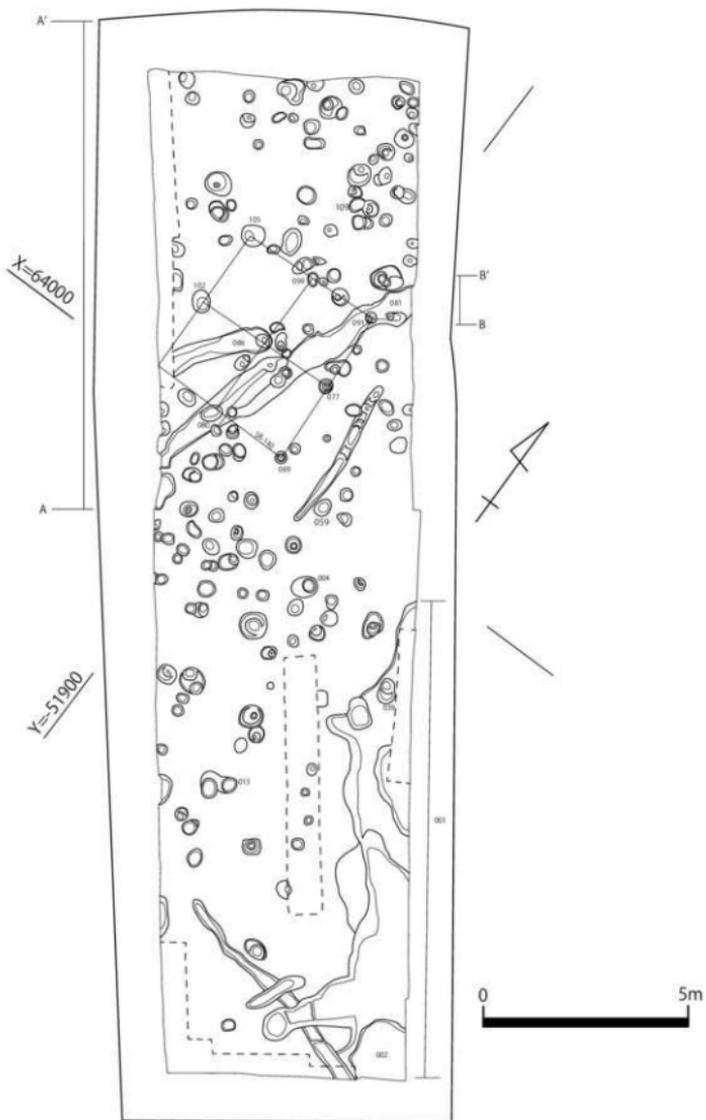


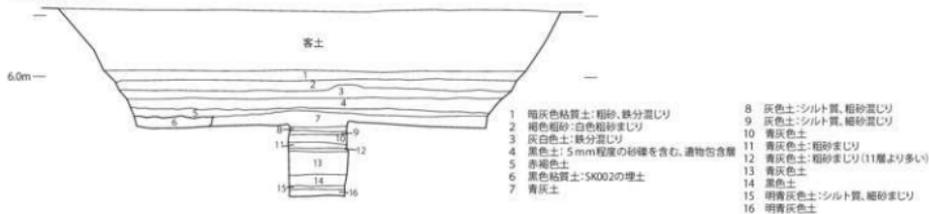
图4. 調査区全体図 (1/120)

## 2. 基本層序 (図5)

調査区の現地表標高は約7mである。調査区全体として土壌は水平に堆積しており、地表から90cm程下はマサ土やガラなどによって盛り土されている。

I区南壁土層からみると遺構は7層上で検出され、その上に6層と包含層である4・5層が堆積する。1～3層は後世の田畑に伴うものであるとみられる。調査区北側では一部に4層が残るのみで包含層の堆積はあまりみられない。遺構検出面は21層や23層といった基本的に粗砂混じりの褐色土層である。

### I区南壁土層



### II区西壁土層



### II区南東壁土層(SD-081)

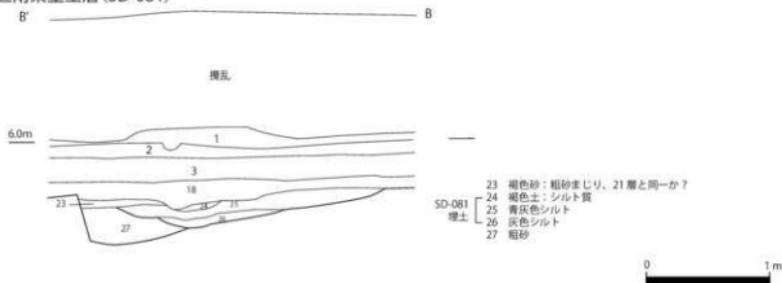


図5. 調査区土層図 (上・中央:1/80 下:1/40)

### 3. 遺構と遺物

#### 1) 掘立柱建物

調査区のほぼ中央部に2間×2間の総柱になる掘立柱建物が発見された。

SB-140 (図6)

調査区のほぼ中央部に発見された2間×2間になると考えられる総柱建物である。南北にわずかに長く、桁行全長4.08m。柱間は北から1.6m、1.7m。梁行全長3.66m。柱間は西から1.4m、1.34mである。主軸方位はN-2°-Eをとる。

柱穴から数点の土器片が出土しているものの図示できる資料はないが、破片資料や建物の主軸方向から南西で行われた第1次調査で発見されたSB-51、52と同時期であると考えられる。

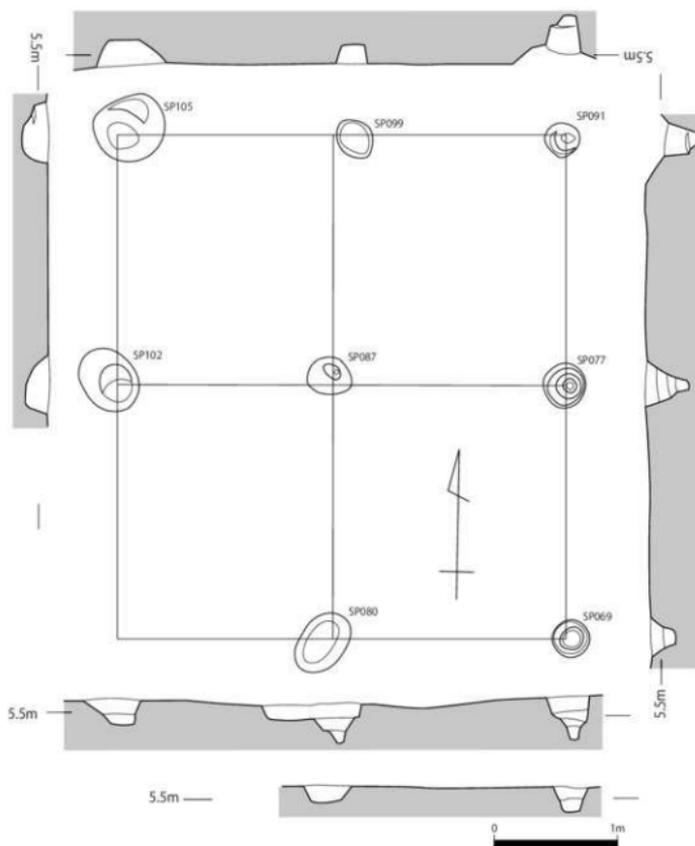


図6. SB-140実測図 (1/40)

## 2) 土坑

### SK-002 (図7)

調査区の南東隅において発見された土坑と思われる遺構であり、一部が調査区にかかる形で発見された。埋土は黒色粘質土である。出土遺物から8世紀末以降には埋没したものと考えられ、SD-001とほぼ同時期に埋没した可能性が高い。

### 出土遺物 (図8)

1は土師器の坏である。口径13.0cm、底径7.8cm、高さ3.4cm。内外面ともに調整は回転ヨコナデであり、外面はヘラ切りが施されている。2は土師器の坏である。口径13.0cm、底径7.9cm、高さ2.4cm。外面調整は底部は不定方向ナデ、側面は回転ヨコナデが施されている。内面調整はナナメ方向のナデであると思われる。3は土師器の坏である。口径11.4cm、底径5.6cm、高さ2.4cm。内面底部は不定方向ナデ、内外面側面は回転ヨコナデ、外面底部は不明瞭ではあるがナデが施されている。4は土師器の皿である。口径14.6cm、底径11.4cm、高さ1.5cm。内外面側面は回転ヨコナデ、外面底部は回転ヘラケズリが施されている。5が土師器の高台付坏である。底径8.0cm、残存している高さは1.7cmである。内外面共に調整は回転ヨコナデである。胎土は細かく、雲母を含んでいる。

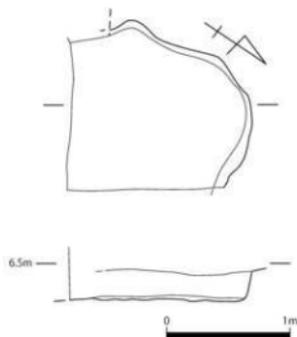


図7. SK-002遺構実測図 (1/40)

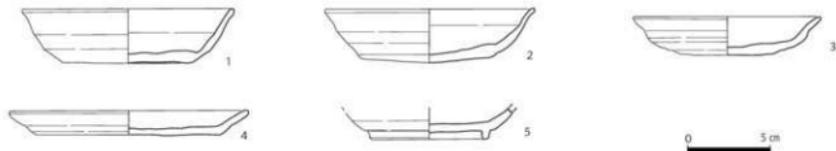


図8. SK-002出土遺物実測図 (1/3)

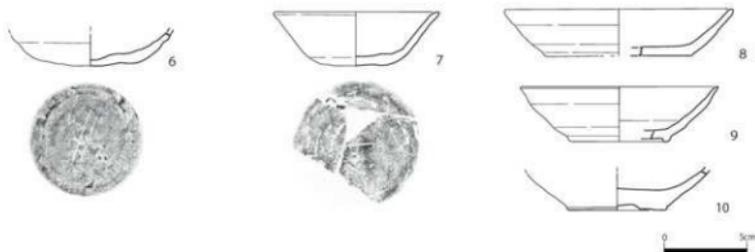


図9. SD-001出土土器 (1/3)

### 3) 溝

調査区全体で5条の溝が発見されている。

#### SD-001 (図4・5)

調査区東壁に沿う形で発見された溝である。なお東側の肩が未検出であることや西側の肩の様子から溝ではなく地形の落ちである可能性も高い。8C末頃には埋没したものと考えられる。土層図は図5を参照されたい。

#### 出土遺物 (図9)

6は土師器の坏である。黑色土器A類。高台は残ってはいないものの、底面に貼り付けた痕跡がある。底径は6.4cm、残存高1.9cm。内面調整は底面部分はナデ、側面はケズリ。外面調整は底面は不定方向ナデ、側面は不明瞭だがナデと思われる。ヘラ記号がある。7は土師器の坏である。口径10.2cm、底径4.2cm、高さ3.3cm。内外面共に調整はナデであり、外面の底部のみケズリが施されている。8は土師器の坏である。口径13.4cm、底径9cm、高さ2.9cmである。内外面ともに調整はナデ、外面の底部はヘラ切りである。9は土師器の坏である。口径12cm、高台径6.2cm、高さ3.4cm。内外面共に調整は回転ヨコナデ。10は越州窯系青磁坏である。底径6cm、残存高2.3cm。軸は灰オリーブ色を呈する。

### 4) その他 (図10)

主にビットと包含層から出土した遺物について述べる。

11はSP-004から出土した須恵器の坏である。口径13cm、底径7.2cm、高さ4.3cm。調整は内外面共に回転ヨコナデである。12はSP-013から出土した土師器の坏である。底径7.2cm、残存高1.4cm。内面底部はナデ、内外面の側面は回転ヨコナデ、外面底部はヘラ切りが施されている。13はSP-022から出土した土師器の坏である。口径12.8cm、底径7.1cm、高さ3.8cm。内外面ともに調整はナデ、外面の底部はヘラ切りと思われるが不明瞭である。底部のほぼ全面と側面部分1/4ほどが残存している。14はSP-039から出土した土師器の高台付坏である。黑色土器A類。底径6.4cm、残存高1.4cm。高台の1/2程が残存している。15はSP-059から出土した越州窯系青磁の蓋である。直径19.5cm、残存高さは1.1cm。灰黄色の色調を呈する。16はSP-109から出土した土師器の高台付坏である。黑色土器A類。高台径7.2cm、残存高2.1cm。外面調整は側面は回転ナデ、底面はナデが施されている。高台の1/4程

が残存している。17～19は調査区Ⅰ区の包含層から出土した。18は須恵器の埴である。口径13cm、高台径8cm、高さ4cm。内外面共に調整は回転ヨコナデであり、外面底部のみナデが施されている。19は須恵器の埴である。高台径7cm、残存高2.9cm。内外面共に調整は回転ヨコナデである。20は須恵器の埴である。高台径6.4cm、残存高2.1cm。内外面共に回転ヨコナデが施されており、外面底部はヘラ切りである。

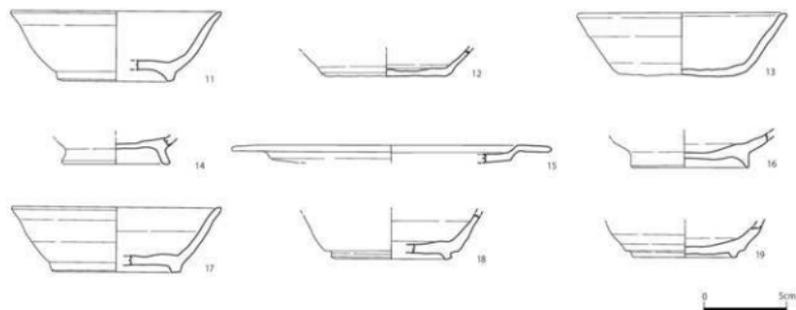


図10. その他遺構・包含層出土土器 (1/3)

#### 4. まとめ

今回確認された掘立柱建物は第1次調査区で発見されたSB-51、52と同じ主軸方向をとっており、規模もこちらのほうがやや大きいとはいえ同規模の範疇であるといえよう。出土遺物は破片のみで時期を判定することは難しいが、その主軸方向や規模からSB-51、52と同時期のものである可能性が高く、それらと共に倉庫群を成していた建物である可能性がある。第1次調査と第7次調査で発見されている大規模集落を形成する一部であったと考えられる。



1. II区全景（北から）



1. I区全景（北から）



2. II区東壁・SD-081土層



1. I区南壁土層



2. SK-002 (東から)



1. II区西壁土层



2. II区西壁土层

# 報告書抄録

ふりがな	ひがしなかいせき6							
書名	東那珂遺跡6							
副書名	一第8次調査報告一							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1431集							
編著者名	三浦 萌							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2021年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
東那珂遺跡	福岡県福岡市博多区 東那珂1丁目425番、 426番	43132	2635	33° 34' 33.3"	130° 26' 27.24"	20200408 ～ 20200523	234.65㎡	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東那珂遺跡	集落	古代	掘立柱建物、 ピット、溝、土坑	須恵器、土師器		第1次調査区で見えさ れた掘立柱建物と同時期 とみられる建物の発見		
要 約	<p>東那珂遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡であり、今までに7度の調査が行われている。本調査区の南西隣接地で行われた第1次調査では古代の道路状遺構と掘立柱建物、溝、井戸、木棺墓が発見され、墨書土器や越州窯系陶磁器が出土している。その他にも古墳時代の堅穴住居址・土坑が発見されており、その中でも古墳時代前期の住居址からは破鏡が出土した。</p> <p>本調査では2間×2間の総柱の掘立柱建物1棟と古代の土坑1基、その他に溝やピットが複数発見された。このうち掘立柱建物は規模と主軸方向が第1次調査で見えされたものとはほぼ同一である。第1次調査で見えされた掘立柱建物は道路上遺構と同時期であるとされており、今回発見された掘立柱建物も同時期のものであった可能性が高い。</p>							

## 東那珂遺跡6

一 東那珂遺跡第8次調査報告一  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1431集

2021年6月30日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 有限会社 森田印刷所  
福岡市中央区大手門2丁目2-25



